

人間の安全保障セッション概要

1. 日時 2011年1月28日 07:30~08:30

2. 場所 ダボス WALDHOTEL 内会場

3. 参加者

マーク・マロック＝ブラウン元国連副事務総長（主催者側）、緒方貞子 JICA 理事長（主催者側）、潘国連事務総長（一部）、チャン WHO 事務局長、サザランド・ゴールドマン・サックス・インターナショナル（GSI）会長、シェッティ・アムネスティ・インターナショナル事務局長、マフバニー・シンガポール公共政策学院学長、ガルーチ・マッカーサー財団会長、高須人間の安全保障に関する国連事務総長特別顧問等約 30 名、

4. 全体評価

- (1) 我が国が主導する概念である人間の安全保障概念の重要性・普遍性が確認されるとともに、同概念の推進における日本の役割について高い評価がなされた。
- (2) 従来同概念は国連や政府機関主導で推進されてきたのに対し、本セッションを通じて民間財団や企業（武田薬品工業等）が関心を示すきっかけとなり、同概念推進における主体の広がりにつながった。また、有識者や NGO 等との関係構築につながり、同概念の実現に向けたネットワーク化を推進する重要な機会となった。
- (3) 今後、人間の安全保障を実現するに当たって適用すべき分野や具体的な提言が得られたことは、同概念をより効果的に推進する上で有意義であった。

5. 概要

(1) 主要な発言

- 人間の安全保障は国際社会のあらゆる問題に対処する上で従うべき重要な概念（潘国連事務総長、緒方 JICA 理事長、マロック＝ブラウン元国連副事務総長、サザランド GSI 会長、マフバニー・シンガポール公共政策学院学長）
- 同概念の一層の推進には企業・民間部門の積極的な関与が必要（緒方 JICA 理事長、マロック＝ブラウン元国連副事務総長、サザランド GSI 会長、高須特別顧問）
- 新興国を関与させることが重要（川口元外相）
- 明確な基準としての人権と包括的な人間の安全保障を併用が重要（シェッティ・アムネスティ・インターナショナル事務局長）。

(2) 今後適用すべき分野

MDGs（高須特別顧問）、保健分野（チャン WHO 事務局長）、平和構築（ホームズ前国連事務次長）、移民等人の移動（サザランド GSI 会長）、雇用保障・社会保障促進による格差是正（緒方 JICA 理事長）

(3) 今後の具体的提言

- 人間の安全保障に対しては、国家主権の原則に基づき抵抗感を抱く国もあるので、同概念が国家主権との関係で中立的であることを明確にすべきであり、そのためのソースブックの策定も検討すべき（マフバニー・シンガポール公共政策学院学長）。
- 人間の安全保障に貢献した人物・組織等に対して賞を設けるなどして顕彰することも重要（川口元外相）

(了)